

## 【開催報告】

国際シンポジウム 2024 年 10 月、11 月

スペイン語創作活動の最先端から見る多言語世界  
—英語ヘゲモニーとの共存共栄に向けて—

Viewing the Multilingual World through the Vanguard of Creative Activities in Spanish:  
Toward Co-existence and Co-prosperity with the English Hegemony

2024 年 10 月 21 日 (月)、22 日 (火)、23 日 (水)、24 日 (木)、25 日 (金)、30 日 (水)、  
11 月 6 日 (水) に開催した国際シンポジウムについての開催報告を以下のとおり記す。

●10 月 21 日 (月) 18:00~20:30

講演会「現代スペイン語文学の最先端から 一作家の体験」

講演者 Lecturers:

フアン・ビジョーロ Juan Villoro (メキシコ Mexico)

「ドイツ語を学んだメキシコ人作家として」

“As a Mexican Writer Who Learned German”

オラシオ・カステジャーノス・モヤ Horacio Castellanos Moya

(エル・サルバドル El Salvador)

「英語ヘゲモニーのもとでスペイン語で書く」

“Writing in Spanish under the English Hegemony”

カルロス・フランス Carlos Franz (チリ Chile)

「スペイン語、我らを分離する大きな共通語」

“Spanish, the Immense Common Language That Separates us”

司会: グレゴリー・サンブラーノ Gregory Zambrano (東京大学)

通訳: ダニエル・オロスコ Daniel Orozco

会場: 早稲田大学国際会議場井深大ホール

出席者数: 一般 55, 早稲田学生 16

\*少年時代に学んだドイツ語を後に創作に活かしたビジョーロ氏、中米諸国を渡り歩いた後にアメリカ合衆国の大学に着任したカステジャーノス・モヤ氏、外交官としてヨーロッパ各地に滞在した後にチリとスペインで執筆活動を開始したフランス氏、三者三様の立場から、様々な言語が交錯する環境で文学と向き合うことの刺激と苦勞が披露された。会場には、在日本スペイン大使フィデル・センダゴルダ氏、在日本チリ大使リカルド・ロハス氏、インスティトゥト・セルバンテス総長ルイス・ガルシア・モンテロー氏が顔を揃え、スペイン最大の通信社エフェが取材に訪れるなど、スペイン語圏でもこのシンポジウムへの関心が

高いことが窺われた。三氏の講演後、スペイン語と日本語で様々な観点から質問とコメントが寄せられた。



●10月22日(火) 18:00~20:30

円卓会議「スペイン語から世界文学へ ―翻訳の役割と重要性」

登壇者:

寺尾隆吉 (早稲田大学)

「日本におけるラテンアメリカ文学 ―その変遷」

浜田和範 (慶應義塾大学)

「ラテンアメリカ文学の翻訳体験」

“My Experiences of Translating Latin American Literature”

富田広樹 (北九州市立大学 University of Kitakyushu)

「カルロス・フランスの翻訳」

“Translating the Novel of Carlos Franz”

カルロス・フランス Carlos Franz

「翻訳された自作を見つめる体験」

“Experiences of Viewing my Own Works Translated to Other Languages”

オラシオ・カステジャーノス・モヤ Horacio Castellanos Moya

「私の小説の翻訳家たち」

“The Translators of my Novels”

フアン・ビジョーロ Juan Villoro

「私の言葉を君へ ―翻訳あれこれ」

“I Give You my Word: Itinerary of my Translation”

通訳: ダニエル・オロスコ Daniel Orozco

会場: 早稲田大学国際会議場井深大ホール

出席者数: 一般 40, 早稲田学生 20

\*日本からの登壇者三名が、日本におけるラテンアメリカ文学の翻訳状況や、作品を日本語に翻訳する時の苦労や工夫について体験談を披露した後、三名の作家が、それぞれの立場から、自分の作品が翻訳された時の思い出や、翻訳と創作の関係について語った。通訳の見事な仕事もあって会場には一体感が生まれ、学生と一般参加者から日本語、スペイン語、英語で質問とコメントが飛び交った。その意味でも、翻訳と通訳の重要性を改めて確認することができるセッションとなった。



●10月23日(水) 15:00~15:30 (一般非公開撮影)

フアン・ビジョーロによる短編小説「マヤの黄昏」の朗読と解説

Lecture on “El crecúspulo maya” by Juan Villoro

●10月23日(水) 17:00~18:00 (一般非公開)

学生と作家の質疑応答、討論

参加者:

フアン・ビジョーロ Juan Villoro

オラシオ・カステジャーノス・モヤ Horacio Castellanos Moya

カルロス・フランス Carlos Franz

上條まゆ海 (早稲田大学社会学部)

伊平未紀 (東京大学農学部)

船寄臯良 (早稲田大学国際教養学部)

中島詩織 (早稲田大学国際教養学部)

司会: 間藤茂子 (早稲田大学)

出席者数: 早稲田学生 20、その他 6

\*学生からは、創作の動機から作中に現れる風物や地名に至るまで、様々な質問とコメントが発せられ、なかには素朴すぎるのではないかと思われる質問もあったが、作家たちは三名とも英語でわかりやすく丁寧に答えていた。実体験がどのような形で創作に活かされるのかという点が、学生たちに共通する疑問だった。一般客を入れず、学生と作家だけで議論が交わされたこともあり、また、司会者の巧みな運営にも助けられて、終始アットホームな雰囲気で行進した。また、このセッションの後に行われたレセプションでは、作家、学生、大学関係者、出版関係者、外交官など、様々な業種の人々が一堂に集い、約二時間にわたって賑やかに談笑が行われた。



●10月24日(木) 18:00~20:00

記念イベント:

「ホセ・ドノソを讃えて —「ラテンアメリカ文学のブーム」と文学に憑かれた作家の素顔」

“Homage to José Donoso: Secrets of the Most Literary Writer of the ‘Boom’”

登壇者:

フアン・ビジョーロ Juan Villoro

「ホセ・ドノソとの出会い」

“My Acknowledgements for José Donoso”

オラシオ・カステジャーノス・モヤ Horacio Castellanos Moya

「スペイン語作家としてのホセ・ドノソ」

“José Donoso, the Writer in Spanish”

カルロス・フランス Carlos Franz

「ホセ・ドノソをめぐる思い出」

“Personal Memories of José Donoso”

司会: 寺尾隆吉 Ryukichi Terao

通訳: ダニエル・オロスコ Daniel Orozco

会場: インスティトゥト・セルバンテス東京オーデトリウム

出席者数: 一般 65, 早稲田学生 8

\*チリ人作家ホセ・ドノソへのオマージュというイベントに、これほどの客が集まる事態に三人の作家は驚いていた。ドノソにまつわる様々な思い出話が披露されたほか、具体的にドノソの作品をどう読めばいいのか、三者三様の立場から解説がなされた。閉幕後、インスティトゥト・セルバンテス文化担当官ハビエル・フェルナンデス氏から熱烈な感謝の言葉をいただいた。



●10月25日(金) 15:00~15:30 (一般非公開撮影 Private filming)

オラシオ・カステジャーノス・モヤによる短編小説「馬鹿で醜い」の朗読と解説

●10月30日(水) 18:00~20:00

フアン・ビジョーロ作一人芝居『雨についての講演』日本語講演

Presentation in Japanese of *Conferencia sobre la lluvia* (one-man stage play written by Juan Villoro)

演出: 早稲田アナウンス研究会

出演: 鍵野ビセンテ智 (早稲田大学社会科学部 y)

解説: フアン・ビジョーロ Juan Villoro

会場: 在日メキシコ大使館エスパシオ・メヒカーノ

出席者数: 一般 50, 早稲田学生 13

\* ビジョーロ氏の書いた一人芝居を一介の学生が演じるということで、企画責任者は当日まで不安だったが、蓋を開けてみれば、素晴らしい演技に観客は魅了され、ビジョーロ氏まで感激していた。上演後の茶話会では、学生や一般客とビジョーロ氏、メキシコ大使館関係者が打ち解けて談笑し、シンポジウムの成功に対する祝福の言葉が聞かれた。



●11月6日(水) 15:30~16:00 (一般非公開撮影)

カルロス・フランスによる短編小説「アメリカ大陸に迷い込んだスペイン人」の朗読と解説